

行政視察報告書

平成 28 年 9 月 2 日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員樋之津 倫子 

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【1】 県

住 所	伊万里迎賓館 佐賀県伊万里市新天町 7 2 2 - 6 伊万里市生涯学習センター 同松島町 7 3 - 1
電 話	迎賓館 (0955-22-2800) 生涯学習センター (0955-22-1262)
視察案件	平成 28 年度日本カブトガニを守る会総会
期 日	平成 28 年 8 月 20 日 (土曜日) 15 時 00 分から 8 月 21 日 (日曜日) 15 時 00 分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	上記会場と同じ
概 要	一年間の各地の活動状況と、その成果と課題を情報交換しながら討議し、夜の交流集会では開催地の行政関係者を含め、懇親を深めました。特に伊万里市は、今年国のカブトガニ保護指定地域に指定され、活動の成果が実った年でもあり、その記念大会ともなりました。 2 日目の活動報告では、伊万里市における学生の活動が、地域を巻き込んだ取り組みに発展するなど、顕著な市民ぐるみの保護啓発活動に発展していることが目を引きました。終了後は生息地の現場視察に出かけ、貴重な見学をすることができました。
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

1日目

1 役員会 8月20日15時～

2 第13回カブトガニ研究会 8月20日16時～18時

各地で行われているカブトガニの調査研究を提出された資料を見ながら報告が行われました。

笠岡支部からは土屋先生が、アマモの取り組みを口頭で述べられました。

特筆すべきは以下の3点です。



① 「ミトコンドリアDNAの解析調査」 資料① 報告者 宮崎大学 西田先生

西田先生は、各生息地の調査個体数は異なるものの、九州の長崎から福岡までと、壱岐、瀬戸内地域に顕著な違いが表れていた。西田先生は「壱岐が連続した分布から隔離された生息地であることがわかる」とし、帰属性解析においてもほぼ同様の結果が得られたことを示されました。さらに参加者の質問に答えて、「瀬戸内地域の調査は広島までしかしていないが、笠岡についても福山大学の調査によると同様の解析結果となっている」と補足されました。

② 伊万里支部活動 資料② 町を挙げての保護・研究・教育活動

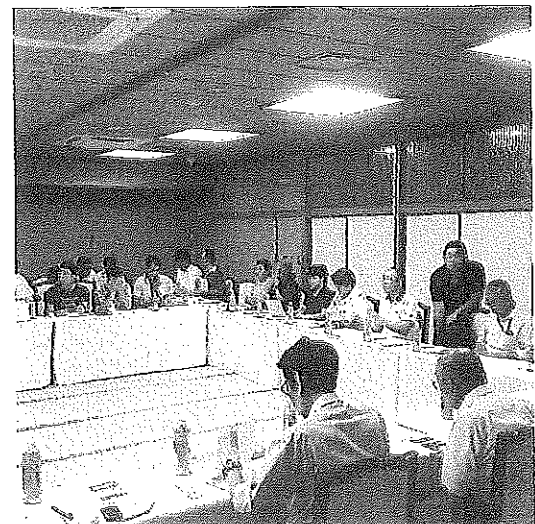
この場では、市内の高校生に、もう50年以上にわたるカブトガニの保護と研究に関わる歩み話し続けている伊万里市カブトガニを守る会の顧問、原田久美氏より、ご自身の取り組みはもとより、小学生の取り組み、高校生の取り組み、市内各種団体支援による守る会の保護・研究活動が報告され、こうした取り組みと文化庁への働きかけが、伊万里湾カブトガニ繁殖地として国天然記念物指定実現に導いた流れとして語られました。地道な繁殖地での産卵観察活動、個体数調べなどまたその増減や因果関係についても語られ、生態系に優しい人間の開発行為を考えさせられました。

③ 長崎支部から フェイスブックページ

「日本カブトガニを守る会」

FBを作って各地での調査、保護活動を広く紹介、相互交流しながら市民の関心を高めるという提案です。

すでに総会の様子もアップされています。





懇親会で伊万里市長と（左）

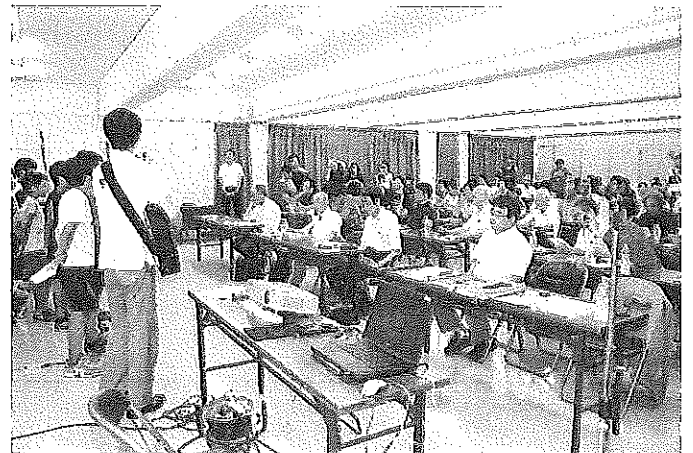


懇親会で伊藤会長と（右）

2日目

1時半から昨日の役員会を受けて総会が開かれ、10時より、地元を中心とした研究発表がありました。

① 「カブトガニを守ろう調査隊」牧島小学校6年生と、香月孝夫氏によるカブトガニの生態研究発表と、アマチュアシンガーソングライター香月氏の作詞作曲したカブトガニを守り愛する歌2曲の合唱。



自らの調査とみんなで絵をかき、順番に説明していく姿は自信と誇りにあふれていて頼もしく、又ギター片手に合唱をリードする香月氏もまたカブトガニをテーマにうたいながら子供たちと故郷の町でカブトガニを大切にしようとする思いにあふれていました。心地よい歌声の響きに会場の雰囲気も和やかになりました。

② 伊万里高校の子供たちからは、クラブ活動としても長年引きつがれてきた研究活動の発表があり、その取り組みの深さや広がりを感じさせられました。その背景に守る会のメンバー、特に教育関係者のたゆまない子供や地域への働きかけがあったように感じました。



③ 伊万里市教育委員会から、伊万里湾のカブトガニ保護に長年取り組んできて、文化庁への働きかけから今年国の天然記念物指定されたが、その経緯について報告されました。

④ 「カブトガニ生息地の保全の国際動向と日本の経験の役割」と題して、九州大学大学院環境社会部門生体工学研究室の清野聡子教授より、九州地域の主たる海岸の自然状態と保全とのかかわりを調査したビデオを見ながら報告がありました。



⑤最後に日本カブトガニを守る会の会長、静岡大学教授伊藤先生より、「伊万里に期待すること」と題して、自然環境保全と、カブトガニの保護との大きなかかわり方が重要だということを、笠岡市の干拓埋め立てを例に挙げながら、力説されました。その意味で、まだ自然豊かな伊万里の海岸に生息するカブトガニを守ることが、自然を守ることと相乗効果を発揮するよう期待すると締めくくられました。

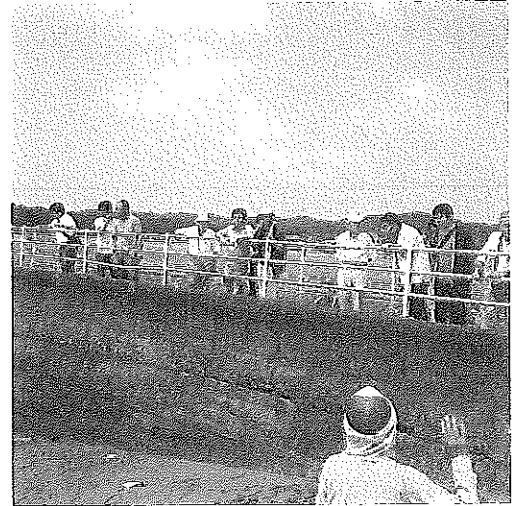
午後

（ 生息地保護地区見学

①伊万里湾カブトガニの館 笠岡市のカブトガニ博物館とは比べ物になりませんが、小さいながらも、手作りの工夫と、管理する人たちのボランティア精神があふれています。



②カブトガニ産卵地・
多々良海岸 きれいな
水と、船の航行があっ
ても波にさらわれるこ
とのない広さがうらや
ましいほどです。



③市内の KCV から、
多々良海岸を24時間産卵状況の中継するカメラが、天然記念物指定に合わせて提供され、設置
されていました。その映像は、FBでも、HPでもリアルタイムで見ることができると聞いて驚いて
います。実際すぐ隣にあるカブトガニの館にあるテレビに映し出されましたから、一般の人も海岸
に降りなくても、カブトガニを驚かせることなく産卵状況を観察できるようになっていることが実
感できました。

